

ドゥカティジャパンが
本誌の取材に答えた

第二弾

リコールとなったパーツの故障が

転倒事故の

要因とは

考えにくいです

イタリアの名門ブランド、ドゥカティのオートバイで発売
当時からパーツ不良があったのではないかとという長田氏
の主張を本誌8月号で掲載した。すると今度はドゥカティ
ジャパン側がマガジンXの取材に応じてくれた。長田氏の
話とドゥカティジャパン側の話で大きな隔たりはあるのか。

ボルテージレギュレーターが壊れても すぐにエンジンが止まる可能性は低い

本誌8月号で取り上げたパーツ不
良をきっかけに転倒事故にあった長
田氏の主張を取り上げた。長田氏の
主張だけでは一方的なので、ドゥカ
ティジャパンに取材したいと連絡し
た。長田氏とドゥカティジャパンと
の調停は長期間にわたっている。双
方の話を聞くことで両者の溝の深さ
が分かるので、ドゥカティジャパン
へ向かった。

今回取材に対応してくれたのは、
ドゥカティジャパン株式会社財務部
長の加藤満彦さんとアフターセー
ルス部アフターセールスマネージャー

の関根喜一郎さんだ。取材に応じて

いただいた二人とも調停中の事案が
突然メディアに掲載されたことに違
和感を感じざるをえないという。も
ともと当事者どうしで解決したいと
して、調停を申し入れたのは長田氏
側からの話だったので、このタイミ
ングでのメディアへの露出は理解し
かねるというのだ。裁判となれば、
話は別だが、ドゥカティジャパンと
しては当事者間で解決していきたい
と思っていたというのだ。

長田氏が主張しているいくつかの
点でドゥカティジャパン側との見解

の相違について丁寧に説明をしてく
れた。まず、2009年1月にリコ
ールが発表される半年前にドゥカテ
ィジャパンがパーツ不良を知ってい
て、交換を指示していたという指摘
について。ドゥカティジャパンはこ
のボルテージレギュレーターの不良
について本社から連絡があったのは
2008年11月11日で、その連絡を
受けてパーツの手配、ユーズへの
連絡の手配を行った結果、翌年の1
月のリコール発表に至ったという。

不具合があることを認識したのが11
月で、それ以前にパーツ不良の対処
法などをディーラーに連絡すること
はないそうだ。現場レベルにおいて
トラブルが起きたユーズが販売店
に来たときに、クレーム対策として
パーツの交換をすることはあるかも
しれないが、リコールが発表される
まで、対処法など販売店に連絡する
ことはないという。

続いては転倒の原因について話を
聞いた。長田氏はリコールの対象と
なったボルテージレギュレーターの

故障によりエンジンが突然ストップ

し、リアタイヤがロックし転倒した
と言っている。一方のドゥカティジ
ャパンはそもそも転倒の原因につい
て見解がまったく異なっているとい
う。ドゥカティ側が独自で調査し、
実際に転倒した現車を確認し得られ
た結果は、前輪がロックしたことに
よる転倒であると思われるというこ
と。ライダーの操作ミスの可能性も
あるということだった。付け加える
と、ボルテージレギュレーターが走
行中に壊れて電気が供給できなくな
ったとしても突然、エンジンがスト
ップすることは限りなくゼロに近い
と話す。実際にドゥカティ側が行っ
たテストによると、走行の仕方によ
って異なるという前提つきながら、
ボルテージレギュレーターが壊れて
も、バッテリーが生きていれば20〜
30分は走行できるという。ただし、
バッテリーの電力がなくなればブラ
グに火が飛ばなくなり、最終的には
エンジンが止まるという。ここでも
両者の主張は食い違う。

19540031A	CLUTCH PISTON	
48210141A	RH SIDE BODY P."CARB"	95,550
48210131A	LH SIDE BODY P."CARB"	96,650
31840741A	M.CYL.-CALLIPER LINE	6,810
74110461A	LH SILENC.CLAMP	5,010
74110461A	RH SILENC.CLAMP	5,010
48710392A	WINDSHIELD	9,520
47011973A	TELAETTO POSTERIORE	159,380

パーツ合計 ¥4,583,470	税込	¥4,812,644
提供 ¥2,001,060	税込	¥2,101,113
差引き ¥2,582,410	税込	¥2,711,531
工費 ¥150,000	税込	¥157,500
フレーム修整(床屋) ¥200,000	税込	¥210,000

フレーム修整に関しては、実際に作業しないと修整できるかどうか分からない。修整できるという仮定でおおよそ¥200,000との回答。
差引き+工費+フレーム修正(床屋)＝¥3,079,031をそれぞれ50%負担
負担額 ¥1,539,515
未確定要素があるのであくまで暫定的な金額となります。

長田氏が編集部に送ってくれた修理の請求書。パーツ番号も書いてあり、ドゥカティの誰かが発行したものだ。



長田さんがリアがロックして転倒したときに付いたと主張しているリアタイヤの擦過痕。

前タイヤにある擦過痕が 転倒の原因となった証拠

では、リコール対象となったボルテージレギュレーターが壊れた場合どんな症状になるのかと聞いてみた。ボルテージレギュレーターが壊れた場合、バイクが止まっている状態ではわからないという。ボルテージレギュレーターは発電した電気を整流するのが仕事。したがって止まっている状態ではわからないという。たとえば、レギュレーターが壊れたとしてもバッテリーが仕事をしてしまう。そしてバッテリーの電気がなくなるとエンジンがかからなくなるということなのだ。長田氏の話の中で、納車直前のバイクのバッテリーが上がるという症状が多発したという話に対しては、ボルテージレギュレーターが壊れていてもこういう症状は起きないという。そもそも動いていない間はレギュレーターなどは仕事をしていないので、レギュレーターではなく、バッテリーがダメだったという可能性が高いのだが、ドウカティジャパンはそういった話を聞いたことがないという。レギュレーターは壊れたとしてもライダーにはなかなかわかりづらいという。電圧が上がる、もしくは下がるとふたつの症状が出るからだという。電圧が上がると灯火系が突然明るくなるとい

う症状が出て、電圧が下がると、警告ランプでライダーに知らせるといふ。長田氏の場合でも、もしボルテージレギュレーターが壊れていたとしたら、こういった症状が出ていたのではないかと。続けて、ドウカティジャパンは長田氏はボルテージレギュレーターの故障が転倒の原因と主張しているが、事故後、長田氏が行ったテストで事故車のボルテージレギュレーターは電圧は弱くなっているものの、仕事はしていることが証明されている。したがってボルテージレギュレーターの故障がエンジンストップの原因となり、リアタイヤがロックしたという主張は筋が通らないのではないかと話してくれた。

そして長田氏に対して、半額出してくればバイクを修理するという書類（右ページ下）があるが、これはドウカティジャパンから提案したことかと思えてみると、ドウカティジャパン側に過失はないと主張しているから、そのような提案をこちらからしたことはない。もしかすると、現場レベルで、販売店が独自に長田氏に申し入れをしたことがあったのかもしれないが、ドウカティジャパン側としては認知していないという。そしてたしかにバイクは初期不良があったようだが、ドウカティジャパンとしては「フロントタイヤの跡が前輪ロックの証拠であり、メカニカルトラブルではない」と思っています。長田さんはライダーとしてもバイクに乗れる方だと思いますので、上手な人だからこそ反射的にブ

■編集部が考える2者の相違点

長田氏		ドウカティジャパン
2008年6月の購入時にすでに1098モデルにはボルテージレギュレーター不良が原因と思われる症状がでており、ドウカティ横浜のスタッフが旧型の999のパーツに交換して納車していると言っていた。さらに半年後にリコールすると言っていた。	← パーツ不良が判明した時期 →	パーツ不良の事実を知ったのは2008年11月でそれ以前にリコールを出すという情報は出していない。パーツの交換は販売店が独自の判断で行った行為であり、こちらからは指示を出していない。
ボルテージレギュレーター不良を起因とする突然のエンジンストップにより、リアタイヤがロックして転倒した。リアタイヤに擦過痕がある。	← 転倒の原因 →	フロントタイヤがロックしたことによる転倒。操作ミスの可能性もありえる。リアタイヤに擦過痕がない。
ボルテージレギュレーターの不良が原因となり、エンジンが突如ストップことにより転倒した。	← ボルテージレギュレーターが壊れた事による事故なのか →	ボルテージレギュレーターが壊れたとしても突然エンジンがストップすることはほとんどない。長田氏のバイクに装着されていたボルテージレギュレーターは事故後に長田氏が行ったテストでも作動していたので、走行中に壊れたとは言えない。
ドウカティジャパンがサプライヤーにテストをしないようにと指示している。	← 長田氏が要求するテストに応じないのはなぜか？ →	我われが行ったテスト内容と異なるため、どのようなテストを行うのか伺っているところ。
責任がないと言いながら修理費用を半額出すと言った。	← ドウカティジャパンは修理費用の半額を持つと言った？ →	そのようなことを我われから提案したことはありません。

レーキを掛けたということが考えられます。バイクを販売するドウカティジャパンとしては原因究明を求められたら、メーカーとして責任を持つて真摯に対応しています。しかし長田さんとの溝が埋まらないのは非常に残念です」といふ。

ドウカティジャパンの取材の中で販売店（現場）の判断という言葉も聞いた。そこで長田さんにバイクを販売した（株）梅田モータースDUCATI横浜の榎本氏宛に修理の見積書は誰が作成したのか。ボルテ

ジレギュレーターの不良は本当に知らなかったのか、など6つの質問をFAXで送ったところ、（株）梅田モータースDUCATI横浜の榎本氏から以下のような返答が来た。

7月19日付けでいただきました質問状に対する回答です。弁護士と協議しました結果、本件は、現在東京簡易裁判所において、調停継続中でありますので、回答は差し控えます。宜しくご査収くださいませ。失礼致します。